

縄文時代加曽利E式の粗製土器について

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-03 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/2937

卒業論文概要

「縄文時代加曽利 E 式の粗製土器について」

相京 和茂

縄文土器には、装飾が施された精製土器と地文中心の粗製土器が存在する。近年、一部の研究者により、両者の明確な分化が中期後半期まで遡る可能性が指摘されている。

本稿では、関東地方の中期後半期にあたる加曽利 E 式の粗製土器について、深鉢を中心に資料の集成と分析を行なった。それにより、粗製土器の具体的用途と出現理由の解明を試みた。

分析及び考察の結果、粗製深鉢は煮沸具として実用的かつ効率的な実用品であることが明らかとなった。用途については、間接的ではあるが、堅果類に代表される食料資源との関係性が想定された。そして粗製深鉢に見られる変化は、中期末の気候の寒冷化による食糧事情の変化、それに伴う食物加工工程の効率化と大きく関連していると推測された。

つまり粗製深鉢は、気候の変化に対応するため、食料の煮沸・作業工程の効率化という目的のもとに考案された、極めて実用的な道具であった可能性が高いと結論づけることができたのである。



栃木県槻沢遺跡出土
加曽利 E 式粗製深鉢